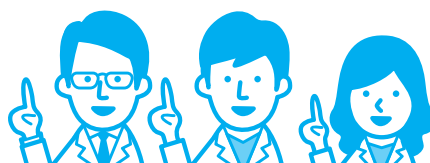


## 女性の健康を守りたい！！



### 子宮頸がんについて

子宮の出口（けい部）に近い部分にできるがんで、日本でも年間約1.1万人がかり患し、約2,900人が命を落としています。特に20歳～40歳代の発症が多く、40歳までの女性のがんによる死亡原因の第2位になっています。ほとんどの子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）感染が原因で、発見が遅れると子宮を失う人もいます。

### 子宮頸がんで苦しまないために

HPVワクチン接種と子宮頸がん検診の受診の2つがあります。



### ポイント① HPVワクチン

子宮頸がんの原因となる2つのタイプHPV16型と18型（50～70%を占める）のウイルス感染を防ぎ、子宮頸がんの罹患を予防します。

※ワクチンで防げないHPV感染もあるため、併せてがん検診を受診することが重要となります。

※日本の子宮頸がん検診受診率43.7%（20～69歳）

⇒他の年齢層と比べ、特に20～25歳の子宮頸がん検診の受診率は低くなっています。（15.1%）

HPVワクチンは、平成25年4月に予防接種法に基づく定期接種に位置づけられました。平成25年6月から積極的な勧奨を一時的に差し控えていましたが、今年4月から、他の定期接種と同様に個別の勧奨を行うこととなりました。

厚生労働省のホームページ HPVワクチンに関するQ&Aも参考にしてください。



**【令和4年度 HPVワクチン対象者】** ※対象者の方には4月に個別通知しています。

#### 定期接種

- ◆**対象者** 小学校6年（平成22年度生まれ）～高校1年生相当（平成18年度生まれ）の女子  
※平成18年度・平成19年度生まれの女子は令和4年4月～令和7年3月の3年間、公費で接種できます。

#### キャッチアップ接種（積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方）

- ◆**対象者** 高校2年生相当（平成17年度生まれ）～25歳になる女性（平成9年度生まれ）で、過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない方  
※令和4年4月～令和7年3月の3年間、公費で接種できます。

◆**払い戻し申請について** 自費で接種された方の申請の受付が始まりました。お問い合わせください。

### ポイント② 子宮頸がん検診 ※対象者の方には4月に受診券をお送りしています。

ワクチンで防げないHPV感染もあるため、20歳になったら2年に1回、必ず子宮頸がん検診を受けてください。市の検診受診券があれば、800円で受けられます。